

みちしるべ

みずからのために道しるべを置きみずからのために標柱をたてよ (エレミヤ31:21)

人になれ 奉仕せよ

聖句： わたしはぶどうの木 あなたがたはその枝である (ヨハネによる福音書 15:5)

保育目標：	0歳児	・友だちを身近に感じて親しみを持つ。冬の遊びを楽しむ。
	1歳児	・神さまに自分から祈ろうとする。寒さの中、身体をいっぱい使って遊ぶ。
	2歳児	・友だちの思いに気づきながら、つながりを深めていく。
	3歳児	・気の合う友だちを誘って遊び、気持ちに通じることを喜ぶ。ルールのある遊びを楽しむ。
	4歳児	・友だちと遊びの中で、共に喜び合う経験を重ねていく。
	5歳児	・一人ひとり違っていることを認め合い、生活の中で共に過ごす喜びを感じる。

寒い朝は、園庭の土山や傾斜の至るところに霜柱が張り巡らしています。元気に園庭に出てきた子どもたちはその霜柱を見つけると、そっと手のひらにのせ視線を送り太陽の陽でキラキラしている「氷」の世界へ身を寄せていきます。一緒に眺めるその時間は同じ感覚を共有している喜びだけでなく、目に見えない何かで繋がっているかのようです。冬の季節、自然に触れると違った感覚の発見ができますね。きっと保護者の方々も、同じような感覚や想いを日々の子育ての中で経験されていることでしょう。

園生活の中で子どもたちは様々な出来事に出会い、心を動かされながら過ごしています。それは、乳児クラスでもよく見かけます。特に0歳児は全てが未知の世界。自分の周りにある物、特に興味・関心をもった物にじっと心と身体を向け手を伸ばして触ってみたり、舐めてみたり、試してみたり…と感覚を研ぎ澄ませ「ワクワク」や「ドキドキ」な感情を経験しながら生活していることでしょう。そして少しずつ自分の周りの人間関係へと興味が向けられ、お友だちとの関わりが楽しくなってくる2歳児。先日、乳児クラスで過ごしていると2歳児の子どもたち3人が集まって、何やら楽しく会話をしていました。じっと耳を澄ましながらその光景をみていると、台の上に直方体のソフトブロックを置き、それをTVに見立て笑ったり、おしゃべりしたり…3人の世界の中でした。それはまるで本当にTVを見ているかのようにとても楽しそうでした。しばらくすると、いつの間にかそのソフトブロックのTVが携帯電話になっていて、3人とも耳に当てて通話しています。大人の姿をよく観察している子どもたちは、携帯電話の扱いも上手です。人さし指を横にスライドしたり、ナンバーを押す真似をしたり。。固定電話でないところに今の流れを感じます。またしばらくすると、今度は望遠鏡に変身です。直方体のソフトブロックを目に当てて、1人が「あっ！何だろう！」と遠くを指さし何かを見つけると3人ともその場から立ち去り、新たな見立てごっこ遊びを展開していました。3人が去っていく後ろ姿を見ながら、本当に大きく成長しているなあと微笑ましく思いました。それと同時に一人ひとりが日々の生活の中（こども園やご家庭）で経験していることが、子どもたちの遊びの中で様々な形に変化していきながら展開され、広がっていく面白さを感じました。また、子どもたちの想像力の豊かさ、表現の楽しさを味わう喜びを、子どもたち自身が繰り広げています。自ら遊びを生み出す子どもの力や可能性は無限に広がっていきますね。これからも、その小さな一つ一つの芽を大切にしていきたいと思えます。

1月の下旬にはクラス懇談会、また、2月には個人面談もあります。お子さんの1年間の成長と一緒に共有し、喜びを分かち合いたいと思えます。私たちにとっても保護者の方にとっても、これからの子育ての励みや力になっていくでしょう。そして3月まであつという間です。特に年長さんは、こども園での生活がさらに充実した日々となるよう保護者の方々と共に色々な事を共有し、大切に過ごしていきたいと思えます。

副園長 松下 成美